

## 全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会

(発行)

# 会報

第122号

平成30年3月発行

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会  
〒106-0012 東京都港区芝大門1丁目10番1号  
(全国たばこビル内6階)  
電話 (03) 6721-5710  
FAX (03) 6721-5711  
ホームページアドレス <http://www.zspi.jp/>

## ご挨拶

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会

会長 竹内ふき子

(東京都立城北特別支援学校PTA会長)

今年度も会員の皆様のご理解とご協力により、予定していました事業は滞りなく終了することができました。ありがとうございました。

そして今年度第60回目を迎えました研修大会は節目の年にふさわしい、盛大な開催になりましたことをご報告すると同時に感謝申し上げます。

この60年の歩みの中には、どれだけの方々がどのような努力を積み重ねてこられたでしょう。いくつもの思いが連合会という形になり、やがて大きな広がりとなつたりを作り出し、活動が積み上げられてきました。私たちはそのつながりの歴史の中にいます。そして、今私たちがその思いをつなげる役目を持ちました。

今大会の主題「つなぐ、つなげる、つながる、肢体不自由教育の広がる未来」この言葉を節目の大会だからこそ、掲げることになりました。大会のプログラムそれぞれに、課題としっかり向き合い、沢山の人のつなぐ手を伸ばし、子供たちが未来に夢を描ける今を、私たちの力で形にしていきたい。そう思える大会となりました。子ども達そして、私たち自身の明るい未来を見つけ出せるように、いつの時代も途絶えることのない子どもへの思いをつなげていきます。一人ではないと思える、活動を共にする仲間がいるこのことが頑張れる力になると信じ、連合会はこれからも活動を続けていきます。

来年度よりまた新たな気持ちで次のステージへ会員の皆様と共に進んでいきたいと思っております。これからもどうぞ皆様のご指導ご鞭撻いただけますよう、よろしく願いいたします。



### ～お知らせ～

ホームページでも会報をご覧ください。そちらには、「平成29年度全国心身障害児福祉財団事業(国庫補助事業)報告」「新規加入校のご紹介」も掲載しております。ご紹介した美術展の作品の色彩も鑑賞できますので、ぜひホームページからもご覧ください。

また来年度から会報誌の発行は、ホームページのみの掲載となります。今まで同様、年3回の発行を予定しておりますので、ホームページ <http://zspi.jp/> をぜひご覧下さい。

# ご挨拶



全国肢体不自由特別支援学校 PTA 連合会  
相談役 田村 康二郎

(全国特別支援学校肢体不自由教育校長会々長・東京都立光明学園校長)

先日、故高木憲次先生が昭和17年に創立された日本肢体不自由児協会創立75周年記念式典にお招きいただきました。高木先生は、「肢体不自由」という用語や「療育センター」の必要性を提唱され、肢体不自由教育を行う公立学校設置に力を尽くすとともに、全国各地に療育センターが設置される基となった整肢療護園を設立された方です。

式典の翌日、2018平昌オリンピック大会が開会しました。その映像を眺めながら、日本で冬季初開催となった1972札幌大会を思い出しました。この大会のスキージャンプ70m級では、笠谷・金野・青地の3選手の活躍で表彰台を独占し、3本の日の丸が雲を射るように大空にはためき、日本中が割れんばかりの歡喜に包まれたのです。大会テーマ曲「虹と雪のバラード」も大ヒットしました。この曲の作詞は、北海道内で「肢体不自由児の父」と称された医師の故河邨文一郎先生でした。東京帝国大学医学部で高木先生の薫陶を受けた河邨先生は、道内で初の療育センターである「北海道整肢学院」開設に力を尽くされるとともに、道内初の肢体不自由校である真駒内養護学校後援会長として肢体不自由教育の充実・発展を応援してくださった方です。

東京2020パラリンピック大会開催まで残り約900日となりました。何時の時代にあっても、今あることを築いてくださった先輩方の渾身の御努力に思いを馳せ、感謝を胸に新たな一歩を踏み出していきたいと思います。

## 各ブロック活動報告

### ▶北海道・東北ブロック

福島県立平支援学校 PTA 会長 赤津 修

平成29年度は、6月8日～9日に「北海道・東北地区特別支援学校肢体不自由教育 校長部会・PTA 会長合同研究協議会」が、福島県郡山市で行われ、各部会が各々の現状や震災後の復興などを協議いたしました。特記すべきは、保護者会が送迎時の待機場所に、保護者自身の食料・水を備蓄している施設もあるということです。大会2日目の視察及び講演は、福島県立郡山支援学校で開催され、現福島県立平支援学校の門馬栄校長先生が、福島県立富岡養護学校（現富岡支援学校）で教頭先生をされていた当時を「3.11を振り返る」と題し講演されました。

避難訓練の通りに避難できたことを聞き、避難訓練の重要性を再認識したとともに、学校内でも家庭内でも通学途中でも、情報をどのような手段で知ることができるのか調べておくことや、通学路、学校、自宅近辺の危険箇所（ブロック塀、山、川、堤、橋、マンホール、老朽家屋）を把握しておくことがいかに重要かを学びました。子供たちの安全安心のため、大変有意義な2日間となりました。

### ▶関東・甲越ブロック

東京都立城南特別支援学校 PTA 会長 高橋 千恵

・平成29年8月20日(日)～21日(月)（文京シビックホール・東京ドームホテル）

第60回全国肢体不自由特別支援学校 PTA 連合会総会 PTA 校長会合同研究大会

第53回関東甲越地区肢体不自由特別支援学校 PTA 連合会大会 PTA・校長会合同研究協議会「東京大会」

今年度の研究協議会は、関東P連・全肢P連の合同大会として開催いたしました。

大会を通してたくさんの方と情報交換をすることで、PTA活動や地域との関わりなど、それぞれの特色を知ることができました。来年度は平成30年7月29日(日)～30日(月)「新潟大会」となります。平成28年度大会の「埼玉大会」から受け取ったバトンをしっかりとつなげていきたいと思っております。

## ▶中部ブロック

福井県立福井特別支援学校 PTA 会長 清水 かおり

平成 29 年 5 月 18 日～19 日、第一回中肢 P 連（福井大会）総会・研究協議会・連絡協議会・情報交換を行いました。『卒業後の余暇活動』についての情報交換・PTA への父親の参加について、とても活発な意見が飛び交いとても有意義な情報交換となりました。

第二回は 10 月 5 日～6 日に第 55 回中部地区肢体不自由教育研究大会（静岡大会）を『一人一人の主体的な姿を育む肢体不自由教育を目指して』をテーマに分科会を行い、石川県立小松瀬領特別支援学校 PTA と、愛知県立岡崎特別支援学校 PTA の 2 校が取り組んできた PTA 活動を発表しました。とても関心の高い内容で、今後の各校での取り組みに対して大いに参考となりました。

また、中部地区の保護者同士の繋がりはとても温かく熱いです。今年度、私自身が助けられることが多く、感謝しております。来年度は全肢 P 連が福井県で行われますので、皆様のご参加をお待ちいたしております。

## ▶近畿ブロック

兵庫県立のじぎく特別支援学校 PTA 会長 平山 まゆみ

近畿地区肢体不自由特別支援学校 PTA 連合会では、例年、総会、夏季研修会、冬季研修会と年間 3 回、全会員が集まる機会を設けています。また、当会の運営について、年間 5 回の役員会を開催しています。

今年度は、夏季研修会において大阪府立茨木支援学校の取組を発表し、各府県からの参加校と意見交換を行いました。肢体不自由の児童生徒の先進的な教育について活発な意見交換ができ、実りある会となりました。また、冬季研修会では、藍野大学医療保健学部、尾藤祥子氏を招聘した講演会を実施しました。講演の内容としては、子どもたちのそれぞれの成長期における留意点、特に第二次成長期の特徴や留意点などを専門家の視点でご講演いただきました。以上のように、近畿地区では会員から『今、知りたいこと』の声を第一に、互いの知識を提供、共有することを柱に活動を行っています。

## ▶中国・四国ブロック

高知県立高知若草養護学校 PTA 会長 西森 里香

今年度は、6 月に高知市で総会および PTA・校長会合同会研究会高知大会が、開催されました。

50 回の記念大会に本校が当番校で 24 校 116 名の参加で盛大に行われました。

文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課 特別支援教育調査官 分藤賢之氏による「新学習指導要領等と社会に開かれた教育課程の実現」と題した講演や、「学校」をテーマにして徳島県立板野支援学校からの提案発表、研究協議、グループ討議が行われました。これらの協議を通して私は、本校を含めどこの学校でも、PTA 活動への参加者の確保とともに、役員選出が一番課題であると痛感しました。

11 月には、山口県防府市で山口県立防府総合支援学校による山口防府大会が行われることになっています。中四国の各学校や保護者の方々の交流を大切に、よりよい中四国ブロック活動を心がけたいと思います。

## ▶九州ブロック

佐賀県立金立特別支援学校 PTA 会長 堤 範子

平成 29 年 10 月 25, 27, 28 日の 3 日間、第 54 回九州地区肢体不自由教育研究大会（佐賀大会）を開催いたしました。前年度、熊本震災後の大変なご苦勞のなか実施された熊本大会を視察し、2 月に引き継ぎをして頂き、佐賀大会を開催することができ、感謝しております。前年度主催の PTA 会長初め諸先生方からアドバイスをもらい、佐賀大会は、PTA の皆様の様々な声を聞きたいと思いそれを前面に出してきました。

第 1 日目は PTA 連合会、PTA 会長会。第 2 日目は、同時に 2 名の方の記念講演を実施しました。PTA からは、在学生や卒業生が利用している施設の園長を招いての講演でした。午後は、教職員 PTA 合同の記念講演で、主催校の卒業生を講師として招き、とても考えさせられる講演をして頂きました。分科会も大盛況で時間が足りないほどでした。3 日目は、公開授業後、PTA では座談会を開き、保護者の施設立ち上げや PTA の組織作りの困難さなど日頃私達が悩んでいる思いを共有することができました。3 日間の開催でしたが、充実した時間だったことを実感したという感想を聞くことができ、うれしく思っています。

# 就任のご挨拶



全国肢体不自由特別支援学校 PTA 連合会  
事務局長 若杉 哲文

平素より全国肢体不自由特別支援学校 PTA 連合会の運営につきましてご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

平成 30 年 1 月 1 日付で事務局長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

前任の岩井英子様には 3 年半の長きにわたり事務局運営に携わってられました。毎年の研究大会そして昨年 8 月には節目の大会となった第 60 回東京大会も盛会に終わることができましたこと、竹内ふき子会長率いる当会事務局の中心となり、また全国の会員の皆様のご理解とご協力の元運営への多大なご尽力をいただきましたこと心より感謝申し上げます。

私は 2 年前に東京都立村山特別支援学校（肢体不自由特別支援学校）校長を退職し、肢体不自由特別支援学校の学校現場からは少し離れたましたが、予てから児童・生徒そして保護者の皆様のために何らかのお役に立てればと思っておりました。校長在職時にも東京大会実行委員会発足時に関わらせていただいた経緯もあり、この職をお引き受けするのは強いご縁を感じ、また背中を押していただいた方へのご期待にもお応えするべく身の引き締まる思いであります。

1 月 8 日の理事会では、第 61 回福井大会に向けた準備も始まっているとご報告をいただいております。大会実行委員会の 漆崎智之様、清水かおり様、吉田弥恵子校長先生を始め福井県の会員の皆様、中部ブロックの皆様、そして関係する学校の先生方がご準備に専念いただけますよう、会員の皆様と一緒にご支援をさせていただきたいと存じます。

最後になりますが、平素より多大なるご理解とご支援をいただいております関係する機関、各団体の皆様、そして全国の会員の皆様、何卒ご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 第 36 回（平成 29 年度）「肢体不自由児・者の美術展」 及び平成 28 年度「肢体不自由児・者デジタル写真展」



全国肢体不自由特別支援学校 PTA 連合会賞  
絵画の部「川で冷やしたなすとかぼす」  
山下 優希（8 歳）  
小郡市立三国小学校（福岡県）



全国肢体不自由特別支援学校 PTA 連合会賞  
書道の部「流星」  
沼田 龍弥（17 歳）  
青森県立八戸第一養護学校

## 平成29年度全国心身障害児福祉財団事業（国庫補助事業）

### 《保護者研修会》

○本部 平成30年1月11日(木)

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者 88名

テーマ 『新しい自分を見つけよう！発見しよう！  
～ドリームマップを体験してみませんか～』

講師 一般社団法人ドリームマップ普及協会 川村 紀子氏



まずは、自分のニックネームを決めてたくさんの人と自己紹介を交わしました。それから自分の好きな色や好きなこと、自分が嬉しいことなどポジティブなことを考え、3人1組のグループの中で伝えあいました。自分の好きな事やしあわせとを感じることを人に話し、共感してもらえることは自分の内面が生き生きとしてくるのを感じました。そして最後の仕上げは、自分の将来の夢を書き、実現したこととしてお話すること。初めて会う方々なのに素直に自分の夢を伝えることができました。夢が実現できそうな、そんな力が湧いてくるのを感じました。終了後参加者で記念撮影をしましたが、みなさんの表情が明るく、エネルギーが満ち溢れているのを感じました。保護者の気持ちが前向きにリフレッシュすることのできた良い研修会となりました。

### ○北海道・東北ブロック

平成29年11月26日(日)

担当校 北海道函館養護学校

会場 北海道函館養護学校

参加者 79名

テーマ 『みんなで育てる食べる力（在宅から卒業後を見据えて）  
～食事介助に伴うリスクと基本』

講師 北海道大学病院小児障害者歯科 外来医長 大島 昇平氏



11月26日に保護者研修会を開催しました。北大大学病院の大島先生を迎えて、「みんなで育てる食べる力（在宅から卒業後を見据えて）～食事介助に伴うリスクと基本」というテーマで講演していただきました。函館養護学校は小学部から高等部まで12年間の学校生活があります。今、新たな問題として、その後の生活介護事業への移行があります。今回は、保護者のみなさんだけでなく、福祉のみなさんにも参加していただき安全な食べさせ方を一緒に勉強しました。食べる仕組みについて実際の画像を見ながら説明を受けることでわかりやすく、口腔ケアについても教えていただきました。参加者からたくさんの質問があり、ニーズが高いことが伺えました。実技研修では、実際に食べやすさ食べにくさを体験したり、介助の仕方を学んだりしました。実際に体験したことでとても勉強になったという感想がたくさん寄せられました。このたびは、私どもが計画した講演会等に助成いただきありがとうございました。

## 《ボランティア研修会》

○中部ブロック 平成29年10月27日(水)

担当校 瀬戸市立瀬戸特別支援学校

会 場 瀬戸市立菰山小学校

参加者 69名

テーマ ①『災害時における対応について』 防災ネット・せと 石原 昭二氏

②『災害時における障害児・者支援について』 柘訪問看護ステーション 神田 春美氏

③『在宅心身障害児・者の現状と課題』 瀬戸旭在宅医療介護連携推進協議会 野田 正治氏

学校周辺の幼稚園、小学校、中学校のPTA・教員から地域の住民の方まで多くの参加を得て実施することができました。午前は災害時の対応をテーマに講義を二つ、午後は在宅心身障害児・者と関係機関の連携をテーマに講義の一つを実施しました。昼食は市防災課と地域の方の協力の下、非常食「五目御飯」と「豚汁」の炊き出しを行いました。現在、災害時の対応については多くの情報が溢れ、多くの方が知識として身につけています。しかし、言葉でわかっているにもかかわらず実際にやってみると全く違うという感想が多く聞かれました。今後も体験的な活動を多く取り入れ、このような研修会をさらに発展・充実したものにしていきたいと考えています。

○関東・甲越ブロック 平成30年2月7日(木)

担当校 埼玉県立蓮田特別支援学校

会 場 埼玉県立蓮田特別支援学校

参加者 30名

テーマ 「埼玉県央地域における災害リスクの正しい理解～要配慮者（避難行動要支援者）を守るために～」

講 師 災害リスク評価研究所代表 松島康生氏



2月7日(木)、本校を会場に「埼玉県央地域における災害リスクの正しい理解～要配慮者（避難行動要支援者）を守るために～」をテーマにボランティア研修会を実施しました。

(1月23日実施予定が大雪のため延期になりました)講師に災害リスク評価研究所代表の松島康生先生をお招きしました。参加者は本校をはじめ埼玉県内の肢体不自由特別支援学校の保護者、教職員、地域のボランティアさん、学校評議員等約30名で、大地震等大きな災害が心配されるなかその対策のため熱心に受講していました

主な内容は、地震ハザードマップの正しい理解、室内の地震対策と防災用品の選び方、洪水時の対策、福祉避難所等あらかじめお願いしていた保護者の質問にも答えていただきながら防災対策の知識について具体的に学ぶことができました。松島先生の豊かな経験とデータをもとにした講義に、参加者からは「とても役に立った」「またお話が聞きたい」等感想が聞かれ、大変有意義な研修となりました。

## 《親子ふれあいキャンプ療育事業》

○関東・甲越ブロック 平成29年10月1日(日)～2日(土)

担当校 千葉県立桜が丘特別支援学校

会 場 千葉市少年自然の家

参加者 62名

テーマ 『親子でキャンプを楽しみながらの音楽療法』

講 師 市川友佳子氏 立石さくら氏 和泉景子氏



10月1日（日）から1泊2日で「親子でキャンプを楽しみながらの音楽療法」のテーマのもと「親子ふれあいキャンプ」を実施しました。1日目は3名の講師によるバイオリンの三重奏を聴きました。演奏曲の他に児童生徒からのリクエストに応じていただいたり、みんなのいる近くの場所で弾いていただいたりして、みんな笑顔いっぱいでした。夜は少年自然の家でバイキングを食べてからキャンプファイヤーを楽しみました。車いすの児童生徒がほとんどですので、キャンプファイヤーを体験したことがある児童生徒、保護者の方が少なく、火の精役の児童生徒が点火すると歓声と拍手が起こりました。みんなで歌を歌ったり、ダンスをしたりして保護者の方と一緒に盛り上がりました。2日目は野外炊飯を行いました。こちらの活動もあまり経験のない児童生徒、保護者の方が多く、みんなでワイワイと楽しみながら作り、食べました。母親だけでなく、父親の方とも一緒にご飯を食べたり、お風呂に入ったりと活動をともにし、有意義で楽しい思い出を作ることができました。

## ○北海道・東北ブロック 平成29年11月11日(日)～12日(月)

担当校 北海道拓北養護学校

会場 北海道拓北養護学校

参加者 67名

テーマ ①『親子でボッチャ！めざせ！パラリンピック』 北海道ボッチャ協会 石川 英仁氏

②『親子でハンドマッサージ』 リンパセラピーインストラクター協会 原 睦実氏

ボッチャの研修では、北海道ボッチャ協会のご協力を得て、公式ボールを用いてレクチュアを受けたりゲームをしたりしました。地元チームの選手やボッチャ甲子園出場選手も来てくださり、子どもたちも保護者の方も一緒に真剣な表情あり、歓声ありの楽しいひとときでした。ハンドマッサージの研修では、手から手へとやさしさを伝えながら心身ともにリラクゼーションする方法を教わり、心地よさとゆったり笑顔の時間が広がりました。「楽しかったね！」という思いを共有しながら、「つながる」「つなぐ」がこのキャンプの柱となりました。親子や家族の絆、新たな仲間や地域の活動、そして、これからの成長へ…初めての挑戦や体験を含む2日間、みんなでたいへん有意義なひとときを創り上げることができました。

## ～ 新規加入校のご紹介 ～

### 福岡県立築城特別支援学校 『元気で なかよく たくましく』

この度、全肢P連のお仲間に加えていただきました、福岡県立築城特別支援学校です。

本校は、昭和54年4月1日に福岡県立築城養護学校として設立され、平成22年度に「福岡県立築城特別支援学校」と校名を改称。肢体不自由教育部門と知的障がい教育部門を併置しており、現在各教育部門の小学部・中学部・高等部合わせて230名の児童生徒が通っております。近年の児童生徒数の増加により、教室不足のため特別教室の転用などで対応していましたが、本年度よりプレハブ校舎の建設・校舎増築等が具体化されることとなり、子ども達の教育環境が少しずつでも整っていくことに、大変嬉しく思っております。

肢体不自由教育部門では、5月27日に「熱く燃えろ！ついきっ子！」をテーマに春季大運動会を行いました。ボールを使った競争遊戯や応援合戦では高等部の子ども達が応援団長として盛り上げてくれました。また、今年度は親子ふれあい演技もあり、子ども達の日々の学習での頑張りや練習の成果が伝わった運動会となりました。

P T A活動では、4つの専門部（広報部・教養部・福祉部・厚生部）があり、クラス理事の方はいずれかに所属を 開修会、夏まつり、保護者交流会、学校祭等の企画・運営活動に取り組んでいます。 保護者間の情報提供・情報交換を活発に行っていくことや、一人でも多くの保護者の皆様に、さらなる学校への理解が深まるよう活動することがP T Aの役割と捉えております。これからも保護者・教職員がひとつになり、子ども達が『元気で なかよく たくましく』生活を送れる学校をめざして頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。